

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：17102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24830059

研究課題名(和文) インドにおける社会的弱者層の若者の共同的関係性の構築過程に関する研究

研究課題名(英文) Communal relationship constructing processes of youth from socially economically weaker section in India

研究代表者

針塚 瑞樹 (Harizuka, Mizuki)

九州大学・人間・環境学研究科(研究院)・助教

研究者番号：70628271

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：本科研は、ストリートチルドレン支援を行うNGOの被支援者であった若者の就職や結婚における選択・決定の場面に着目し、社会的弱者層の若者の共同的関係性の構築過程を明らかにすることを目的とした。NGO出身者の事例からは、インドの若者が一般的に家族や親族を頼って行う選択・決定に関して、NGO出身者はNGOとの共同的関係性を選択・決定の基盤として、選択・決定の準拠集団となる共同的関係性を複数構築していることが明らかとなった。また、これらの若者は故郷の家族や親族との間にも共同的関係性を再構築しており、複数の準拠集団が相互補完的に若者の選択・決定において影響しているという仮説が生成された。

研究成果の概要(英文)：This research focused on choices and decision about career and marriage of youth from socially and economically weaker section in India who had experienced street lives to explore communal relationships constructing process of them. Generally, youth people count on their family and relatives when they make choices and decisions concerned to career and marriage. However, cases of youth who had rehabilitated from NGO shelter homes shows that they construct multiple communal relationships on the basis of relationship with NGO staffs and people had connection with NGO. These youth re-construct communal relationship with own family at hometown. These multiple relationships are complementary to each other to influence processes of their choices and decisions making.

研究分野：文化人類学・社会学

科研費の分科・細目：研究活動スタート支援

キーワード：若者 社会的弱者 共同的関係性 選択/決定 結婚 就労 教育 NGO

1. 研究開始当初の背景

1990年代からインド政府は NGO と連携して、すべての子どもに対する福祉と教育の保障に取り組んでいる。その結果、労働や路上生活の経験のある社会的弱者層の子どもは、何らかの支援を受けた経験をも有している。本科研は、今日、家族やカースト集団などの個人が存立しうる基盤の欠如が指摘される南アジア社会(水島 2002)において、子どもの頃に家を出て NGO の支援を受けた若者がいかなる人々とどのようにして共同的な関係性を構築していったのかを研究することで、家族に頼ることができない若者の共同的な関係性の構築過程について明らかにすると同時に、現代インド都市社会に生きる個人が基盤とする共同体の今日の状況を捉えようとするものであった。

2. 研究の目的

本科研は、18歳までにストリートチルドレン支援を行う NGO の被支援者であった若者の就職や結婚における選択・決定の場面に着目しつつ、若者の共同的な関係性の構築過程を明らかにすることを目的とした。これらの若者の多くが貧困家庭出身者であり、10歳前後で家出し、家族との別離を経験している。子どもの頃に家族という共同体を離れ、NGO という共同体に接触した若者の共同的な関係性構築のプロセスを、個人の経験と意識に焦点を当てて明らかにし、かつ社会的弱者層の子ども・若者にとっての共同的存在の条件をも検討することを目指した。

3. 研究の方法

インドにおける計4回の現地調査において、データ収集を行った。調査の主なインフォーマントである若者の多くはデリー在住であるが、教育のために国内外の他の地域に住んでいる若者もいた。そのため、現地調査は、若者の多くが居住するデリー、若者が教育のために居住するチェンナイにて行った。現地調査の手法は参与観察とインタビュー調査であった。若者が支援を受けた NGO、若者の自宅、職場、若者が通う大学、シェアハウスなどを訪問し、生活の様子を観察し、就労と結婚に関する選択/決定について聞き取りを行った。

<現地調査の概要>

- ・2012年12月 チェンナイ 工学系私立大学の学生に対する進路選択に関するインタビュー調査
- ・2013年3月 デリー NGO、児童福祉委員会の職員に対するインタビュー調査
- ・2013年9月 デリー NGO 出身の若者の就労に関するインタビュー調査
- ・2014年3月 デリー NGO 出身の若者の結婚に関する結婚調査

4. 研究成果

本科研は、インドにおける社会的弱者層の

若者の共同的な関係性の構築過程を、デリーの NGO で支援を受けた路上生活経験のある若者の事例から検討した。

インド社会の今日の状況としては、近代国家としてのデモクラシーや人権の理念と、伝統社会の宗教やカースト、ジェンダーに基づく価値という、二つの言説や実践が対立と矛盾を含みながら共存していることが指摘される(常田 2011)。NGO の施設出身の若者は、グローバル化と自由化が進行する現代インドでは、若者がおとなの役割を引き受けつつあり、若者とおとなという区別が意味をなさない(Souza, Kumar, Shastri 2009)と言われる中で、家族という既存の単位に準拠することが困難な子どもや若者の問題を共有し、先駆的に経験しているともいえる。教育や就職に際して、家族からの協力や助言をほとんど得られずに、NGO の支援を受けた若者のキャリア形成と結婚における選択・決定についてインタビュー調査を行い、彼らが相談をする、助言を求める、支援を得ている人・集団とのいかにして共同的な関係性を構築しているのか分析を行った。

研究の成果としては、以下の二点を挙げる事ができる。

1) NGO 出身の若者の進路選択に関する選択/決定にみる共同的な関係性の構築過程

本科研より前に行った NGO 出身の子どもの中等教育修了時の進路選択に関する調査において、NGO の職員に助言や支援を受けながらも、子どもは自分で進路を選択・決定をするという「自己決定」の意識をもちつつ進路選択を行っていることが明らかとなった。子どもは NGO との間に共同的な関係性を深化させるにつれて、その「自己決定」がおとなの助言や介入を受けつなされる「共同性」を帯びたものとなっていた。

本科研では、NGO 出身の子ども・若者の有する共同的な関係性と比較するために、工学系私立大学に通う若者の進路選択に関する調査を行った。具体的には、中等教育修了段階と高等教育を修了し就職を目指す時期について、誰にどのような相談をし、アドバイスを求めているのか、大学生の学生生活の観察をふまえてインタビューを行った。

1980年以降、インドでは政府が高等教育に十分な資金を支出できないなか、需要がある分野で、私立の高等教育機関の拡大が無秩序に、無計画になされている。その問題点としては、プライベートの高等教育機関の多くが商業主義的であり、その教育の質や、アクセスの不平等性、大学による過度な利益追求、学生に対する詐欺といったことが指摘されてきた。プライベートの高等教育機関の拡大が予想を上回る規模で進行したことで、政府の規制や政策が追いついていない。その結果、中には質の高い教育を行う機関があるにも関わらず、プライベートの高等教育機関には、ネガティブなイメージがついてしまってい

る (Agarwal 2009 : 29)。

本科研では、高等教育機関のプライバタイゼーションが最も進行しているインド南部タミルナドゥ州で、特にプライバタイゼーションが早くから生じていた工学系分野の Deemed to be University に在籍する大学生を対象として、大学生生活と進路選択に関するインタビュー調査を行った。具体的には、インド、タミルナドゥ州の C 市 A 地区にある T 大学の男子大学生 15 名、T 大学の学長、教員 4 名が対象となった。また、T 大学の学生生活の特徴を明らかにするために、大学と学生のシェアハウスにおいて学生生活の観察と学生生活に関するインタビュー調査を行った。彼らの語りにおいては、大学の厳しい規則、教員の授業力不足の問題、学生の北部出身者の高い比率が T 大学の特徴として、学生に認識されていることが明らかとなった。

大学生の進路選択に関しては 工学系を選択した経緯、T 大学を選択した経緯、大学卒業時の進路選択、の三点についてインタビューを行った。大学生は高等教育での専門の選択は、自分で行ったという意識をもちつつも、成績、経済力、親戚の学歴や職業から判断して、選択すべきコースを見出しやすい状況があった。また、工学系という専門の選択は、学生本人の興味関心以上に、親や親せきとのやりとりの中で決定されていた。しかし、学生やその家族にとって、私立大学の増加という高等教育における新しい事態をふまえて大学の選択を行わなければならないということは、親戚や出身地におけるコネクションを利用することが難しい状況を意味していた。その結果、大学選択に関しては、ネットや新聞といったメディアの情報にのみ頼らざるを得ない状況があった。調査を行った北部出身の若者の多くはコネクションもなく南部にやってきて学生生活を送っているが、利潤追求を重視する大学の態度に失望するとともに、その大学に通っていることで受ける外部からの評価に対してもフラストレーションを抱えていた。

NGO 出身者と大学生とを中等教育修了段階の進路選択で比較した場合、前者は NGO 関係者、後者は主に家族、親戚からアドバイスを受けているが、両者を比較すると NGO 出身者は自分で進路を決定したという意識が高いことがうかがえた。

2) NGO 出身の若者の就労・結婚に関する選択/決定にみる共同的关系性に構築過程

若者が自らの教育や職業生活といったキャリア形成について行なった選択・決定についてインタビューを行い、その際に、相談をした相手や支援を受けた相手と、どのように出会い、どのような関係性を有しているのかインタビュー調査を行った。NGO 出身の若者多くは、NGO の施設から自立した後も、通信制教育など働きながら教育を受けていた。その際、教育に関しては NGO や NGO を通じて知

り合った人々からの情報や支援を受けていた。仕事に関しても、最初 NGO を通じて知り合った人のコネクションに基づいている場合が多く、家族や親族のコネクションはほとんど見られなかった。

さらに、インドでは個人の選択・決定というよりも、家族・親族の関わる出来事として理解されている (Singh 2010) 若者の結婚についても、誰が何について決定しているのか、特に故郷の家族との関係性に焦点をあてて明らかにすると共に、家族とコンタクトのない若者のケースにも注目した。

NGO 出身者の場合、同じく NGO の施設出身の女性や勤務先、教育機関等で出会った女性と恋愛をして、同棲、結婚に至っている事例が多かった。また、NGO 出身者の多くが、故郷の家族と連絡を取り合っているが、若者自身が結婚の相手や時期について決定し、家族はその決定に同意していた。家族がいる若者であっても、親や親族が決めた見合い結婚をすることはまれであった。家族との連絡がない若者の事例では、お見合い結婚を望んでもアレンジをしてくれる人がいないこと、結婚をするうえで身寄りがないことを懸念していた。また、若者の家族や友達のキャリア形成や結婚の状況についてもインタビュー調査を行い、若者がいかなる他者の選択・決定にどのような形で関与しているのかについても着目した。その結果、若者が故郷の兄弟姉妹や、同居する NGO 出身者の教育や就職、結婚に関して、アドバイスや経済的支援、決定を行うことが少なくないことが明らかとなった。また、NGO 出身者で NGO 外の女性と結婚した事例では、結婚に関する儀礼に故郷の家族よりも NGO 職員や NGO 出身の友人が出席し、一般的には親や親族が果たす役割を代替していた。

本科研では、NGO 出身の若者は就労に関する選択/決定においては、自分の家族、親族に頼ることはなく、NGO を通じた社会関係によって就職していた。また、結婚に関しては自分で結婚の相手や時期を選択/決定しており、その際の相談は NGO 職員や同じ NGO 出身の仲間に行っていた。結婚が決まった後、婚姻儀礼等は、故郷で執り行う、故郷から家族を呼び寄せるなどしており、結婚が家族との共同的关系性を深化させる契機となっていた。

本科研では、当初社会的弱者層の子ども・若者にとっての共同体的存在の条件を検討することを目的としていた。この点に関して、社会的弱者層の若者は、NGO との共同的关系性を選択・決定の基盤として、故郷の家族や親族との共同的关系性を再構築しており、これら複数の準拠集団が相互補完的に若者の選択・決定において影響しているという仮説が生成された。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

1. 針塚瑞樹「インドにおける若者の進路選択にみる社会関係 タミルナドゥ州、工学系私立大学生の事例」、『九州大学大学院教育学研究紀要』第15号(通巻第58集) 査読無、2013年、73-89頁

〔学会発表〕(計2件)

1. 針塚瑞樹「インド映画におけるストリートチルドレンの表象」、日本子ども社会学会第20回大会(於:関西学院大学) 2013年6月

2. 針塚瑞樹「インドにおける若者の生活実態・意識・進路選択 タミルナドゥ州チェンナイの工学系学生の事例」、『九州教育学会第64回大会(於:大分大学) 2012年11月

6. 研究組織

(1)研究代表者

針塚 瑞樹 (HARIZUKA MIZUKI)
九州大学・人間環境学研究院・助教
研究者番号:70628271